

特248

655

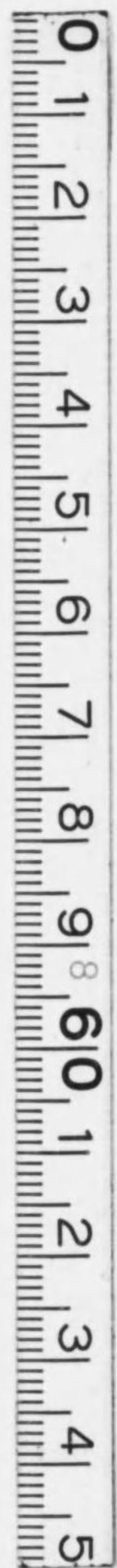
和七年一月發行

# 會報

財團法人明治聖德記念學會

342

299



# 始





特248  
655

# 目次

一、本會趣意書及沿革略	(一)
二、昭和六年度事業報告	(二)
三、東京並地方講演會	(三)
四、研究所研究週會、特別會並擔任者及題目	(四)
五、研究項目	(五)
六、昭和六年度出版物	(六)
七、出張及寄贈書	(七)
八、昭報	(八)
九、昭和六年度基本金收支決算報告	(九)
一〇、昭和六年度經常費收支決算報告	(一〇)
一一、貸借對照表及財產目錄及現役員	(一一)
一二、昭和六年度寄附現金收納報告	(一二)
一三、昭和七年度經常費豫算	(一三)
一四、現行寄附行為(本會々々則)	(一四)
一五、恩賜及各宮家御下賜金並終身會員寄附申込	(一五)
一六、本會研究所研究題目豫定一班	(一六)
一七、本會研究所第一期完成經常費見積額	(一七)
一八、本會職員名簿	(一八)
一九、新入會員刊書	(一九)
二〇、故池邊眞棟大人著古語拾遺新註	(二〇)
二一、本會出版重要書籍及本邦生祠の研究	(二一)

## 財團法人明治聖德記念學會設立趣意書

我れ等凡に世界の諸宗教を科學的に攻明することを以て自ら任ずると同時に又日本宗教の研究に従事すること茲に年あり、深く思を神道及神道と儒佛二教の交渉關係又は我が獨特なる國體、武士道等の由來に潛むるに及び、是れ等日本の教學殊に神道が我が建國の大國民思想の淵源を成せるもの多きを觀取し、その科學的に精確なる研究が又現代國民の自覺忠君愛國心の涵養上、一日も缺くべからざる所以を感ずること頗る痛切なるものあり、而して我邦に於ける是等教學研究の大勢の眞個に徴々として振はざるは讀者の風に認むる所、之れに反して外人が日清日露の兩戰役以來我が戰勝の眞原因を探らんと欲して先づ武士道を研究し進みて神道の攻明に入り、延いて佛敎儒敎等我國の諸有精神の文明の研鑽に従事するもの日に多きを加ふる現狀に接見するに至りては、寧ろ新學の研鑽に従ふ者徒に苟且偷安、臥榻の下晏然他人の軒睡を容るゝに忍びざるものあり、密に惟へらく、彼れ外人の日本研究に熱心なるは固より不可なく眞に我れに在りては他山の石に外ならずと雖も、畢竟日本を眞に能く理解し得るものは獨り日本人あるのみなれば、日本研究は日本人の手に由りて、當然大成せられざるべからざるものなりと、矧や明治維新の開國と與に、俄然襲來せる外來思想の影響と戰爭の餘勢、我が領土の擴大に伴へる交通往來の頻繁と、經濟事情の激變とは、現代思潮の産兒たる青年子女をして、知れず識れず我が建國思想の大本と、國民性の特徴とを忘れせしめ、輕佻浮薄、歐米思想の皮相のみを學びて、以てその物質的文明の餘毒に屬せられんとするに至れり、この秋に方りて我が神道を初め、儒佛の二教等に至るまで、凡て我精神文明を構成せるもの、神髓と特色とに關し、科學的に精確なる研究を遂げ、その由りて來る所以とその眞相とを、現代の智識に照して考察闡明することを得ば、今やその餘弊に苦しみつゝある我が現代思想界の動搖を救治し、國民道徳の涵養上、將た青年子女の精神教育上に資するもの決して鮮少ならざるべきは、我等の信じて疑はざる所、斯くしてその研究結果は、以て之を海外に紹介し、之によりて日本に關する外人の誤解を氷釋せしめ、彼我意志の疏通を計る上に於ても亦十分の實効あること、期して待つべきなり、時偶々明治聖帝の登遐に遭ひ奉り全國民を擧げて仲々の至情禁ずる能はざるものあり、貴賤老少各其分に應じて、争ひて哀悼の赤誠を捧ぐ、是れ我等聖帝洪恩の萬一に酬いたてまつらんとするの微衷、此に新に明治聖德記念學會なるものを組織し、内にありては深く日本の精神文明を研究して、能く科學的の精緻透徹を期すると同時に、外に向ひては其の研究結果を内外文の紀要に公表して、彼れ外人をして我日本の眞相を會得せしむるに至るの一助たらしめんことを切望して已まざる所以なり、我等固より淺學菲才徒に任重くして前途の遠きを思ふ、偏に内外有志の協賛を仰ぐ。

大正元年十一月三日  
明治聖帝天長の佳辰に於て



本會は大正元年 明治聖帝不朽の聖徳を永遠に記念せんが爲に、二千有餘年の我が國固有の精神文明を、現代學術の進歩せる批評的方法に依つて、根本的に究明し、内に向ひては我が邦人の自覺を喚起せしむると同時に、外に向ひては其の研究結果を外國文を以て發表し、以て眞の日本を海外にも紹介するを目的とせる日本學會にして、大正元年 明治聖帝の御記念事業として起れるもの、爾來毎月の講演會に、各地の公開講演會に、本會研究所出版の研究報告及紀要に、將又内外文を以てせる各種の單行本に著々本會の目的遂行に努力し來れり、本會の研究所には、加藤玄智、長井眞琴の二文學博士、星野日子四郎文學士あり、常に本會の研究に當り、時に泰西及び南洋に研究者を派遣し、又本會の研究所より出版せる我が古典、古語拾遺の英文研究の如きは泰西の日本學會に寄與せる本會の業績の一なり、大正十一年宮内省を経て御手元金の恩賜を拜戴したるのみならず、各宮家の御下賜金を拜受せるは本會の感激に禁へざる所、本會は目下褒章條令に依れる公益團體にして、基金八萬五千有餘圓以つて國家的に又國際的に聊か微力を効せるもの、如上本會の事業に對し、廣く内外有志の翼賛を切望す。

財團法人明治聖徳記念學會昭和六年度諸報告

(自十一月三十一日 至十二月三十一日)

(壹) 事業報告

一 昭和六年度講演會

(以) 東京講演——研究講演及公開講演(例會)

再び心學教化と藩立學校教育との關係に就て	心學の本領	蒙古に存在する契丹(遼)の遺跡と其文化に就て	生祠義齋明神に就て	雲照律師を通して見たる慈雲尊者 (公開)	大乘佛教の體驗者慈雲尊者 (公開)	雲傳神道の本質 (公開)	日本の刀劍裝具に及ぼせる歐羅巴の影響——講師所藏實物展覽 (公開)
法政大學講師	心學參前會主	文學博士	醫學博士	前宮内省御用掛	文學博士	大阿闍梨	英國大使館員
石川謙	早野元光	鳥居龍藏	富士川游	外崎覺	本多辰次郎	和田大圓	ボクサ



吉川惟足と贈從三位津輕信政公  
 六國史の編修及古寫本  
 神觀念の發生に關する古代心理  
 日本古代の研究に就て  
 釋潮音に對する一面觀  
 犯罪雜話  
 北海道生祠實查の旅  
 紅海沿岸に在る國々の話  
 假名遣の改定に就て  
 滿洲時局に就て  
 明治文學及其後文壇の種々相  
 時變の滿洲を見て來て

前宮内省御用掛 外崎 覺  
 國學院大學教授 佐伯 有義  
 九州帝大講師 原田 敏明  
 文 學 佛國政府派遣 阿 久 義彦  
 日佛會館員 梅田 義彦  
 内務省神社局 考證官補 伊藤 浩藏  
 列 事 伊藤 浩藏  
 文學博士 加藤 玄智  
 元埃及駐在 領事代理 黒木 時太郎  
 國學院大學教授 松尾 捨次郎  
 參謀本部第五課長 重藤 千秋  
 步兵大佐 東 日 千 葉 龜 雄  
 新聞記者 新 聞 記 者 佐藤 庸也  
 本會終身會員

明治節御記念講演

明治天皇と故藤波言忠子爵  
 明治節の頌  
 余の實查せる明治天皇御生祠の数々

西 忠 義  
 サルウエイ夫人  
 近藤富美子代讀  
 文學博士 加藤 玄智

(呂) 地方講演

(1) 山梨縣西八代郡高田村小學校

開會之辭  
 生祠研究と吾人の修養

村會議員 村松 志孝  
 文學博士 加藤 玄智

(2) 甲府市縣立圖書館

余の生祠研究と甲州現存の生祠

文學博士 加藤 玄智

(3) 大阪市天滿宮社務所

開會之辭

文學博士 加藤 玄智







- (2) 本邦生祠の研究 (完成)
- (3) 英文「神道研究」の佛譯 (完成出版)
- (4) 校本古訓古語拾遺 (研究完成出版)
- (5) 本居宣長口述田中大秀筆記「古語拾遺」の研究校定 (完了)

### 三 昭和六年度本會出版物

#### 一、定期刊行物

- (イ) 紀要第卅五卷第卅六卷(自初卷計三十六册)
- (ロ) 同別冊(文献蒐載)二册

#### 二、臨時刊行物

- (イ) 會報 (昭和六年度)
- (ロ) 英文神道の佛譯(巴里、ギメイ博物館叢書第五十卷に收む)
- (ハ) 校本古訓古語拾遺

#### 四 研究及講演出張と海外視察囑托

- (イ) 比叡山秘藏神道書籍調査出張
- (ロ) 大阪、山梨、山形の二府二縣下出張講演
- (ハ) 歐米及印度視察旅行

#### 五 雲上献納圖書

- 一、紀要(卅五及卅六卷) 及別冊(二)
- 二、佛文神道

#### 六 本會出版物特別寄贈

昭和六年十月關東派遣軍に明治天皇御製若干冊を寄贈し又長井真琴博士外遊に就き同氏に托して英文「日本詩文二名著」若干冊を歐米の學界に寄贈し及布哇の日本文庫に本會發行の諸著數種を寄贈せり







一金壹萬五千圓也  
 一金壹萬圓也  
 一金壹萬圓也  
 一金四千五百圓也  
 一金拾圓也  
 一金壹千五百七圓七拾壹錢也

三井信託株式會社預金  
 安田信託株式會社預金  
 三菱信託株式會社預金  
 三菱銀行定期預金  
 振替貯金基本預金  
 三菱銀行特別當座預金

(2) 昭和六年度經常費決算報告 (昭和六年十二月卅一日調)

收入之部

一金七千五百四拾圓五拾六錢也

内譯

種目	決算額	豫算額	備考
前年度より繰越	一、一八四二四	一、一八四二四	

第六回東京電燈社債利息	一、四〇〇〇	一、四〇〇〇	
第八十二回東京府農工債券利息	一、五〇〇〇	一、五〇〇〇	
三井信託株式會社信託預金利息	七三五〇	七七五〇	
三菱信託株式會社信託預金利息	四九九九	五二〇〇	
安田信託株式會社信託預金利息	五二〇〇	五二〇〇	
會費	一、一七〇七	一、〇〇〇〇	
出版物賣代	二七二三	二〇〇〇	増は本年度新刊の校本古調古語拾遺が見込よりも分譲成績の良好に因る(支出の部出版費参照)
銀行預金利息	二六七九	二五〇〇	
振替貯金利息	二二九	二〇〇	
合計	七、五四〇五	七、三四八四	(差額増) 一九二二



支出之部

一金六千五百貳拾圓五拾貳錢也

内譯

種目	決算額	豫算額	備考
紀要卅五、卅六卷及別冊發行費	一、二七九二	一、三〇〇〇	増は臨時印刷物中校本古訓古語拾遺の需要多く印刷部数の豫定以上に出でしに因る
會報其他臨時印刷費	× 三六二九	二五〇〇	
通信費	二六一八	三〇〇〇	減は加藤研究所長が個人的に文部省の援助を得たる影響に因る
特別研究及發表費	二二〇〇	四〇〇〇	
手當及謝禮	三、一六三四	三、三〇〇〇	同右
諸般會合及接待費	一九三九	二〇〇〇	
旅費及電車其他車馬賃	八八〇	三〇〇〇	減は主として緊縮に因る
備品費雜費	九五三	五〇〇〇	

電話料	八四二八	九〇〇〇	
新聞雜誌書籍及研究用寫真費	一四五六	二〇〇〇	同右
事務所及研究所借家賃及電燈瓦斯水道料其他	八三九二〇	九〇〇〇〇	同右
豫備費		五六六四	
合計	六、五〇五二	七、三四八四	(差額減) 八二八二

右差額は豫算に對する決算の減少を示し一々の豫算額に對し決算額の増加せるもの(表中×印を以て示す)は他の剩餘金を以て支辨せり

差引殘高

一金壹千貳拾圓四錢也

内譯

一金壹千拾六圓八拾四錢也  
一金參圓貳拾錢也

三菱銀行預金  
事務所保管

貸借對照表

(昭和六年十二月卅一日調)



借方		貸方	
摘要	金額	摘要	金額
有價證券		基本金勘定	
預社債	四、五〇〇〇	基 本 金	八五、五七七二
振替貯金基本金 (貯金局)	一〇〇〇	經常費勘定	
信託預金 (安田信託)	一〇、〇〇〇〇	經常費繰越	一、〇一〇〇四
信託預金 (三井信託)	一五、〇〇〇〇		
信託預金 (三菱信託)	一〇、〇〇〇〇		
定期預金 (三菱銀行)	四、五〇〇〇〇		
特別當座預金 (三菱銀行)	一、五〇七七二		
特別當座預金 (三菱銀行)	一、〇一六八四		
現金	三二一〇		
總計	八六、五八七七五	總計	八六、五八七七五
			一、〇一〇〇四
			八五、五七七二
			一、〇一〇〇四
			八五、五七七二

### 財 産 目 録

(昭和六年十二月卅一日現在)

種類	摘要	金額	合計
有價證券			
第六回東京電燈社債	額面貳萬圓	一九、六五〇〇	
第八十二回東京府農工債	額面貳萬五千圓	二四、九〇〇〇	四四、五五〇〇
預金			
振替貯金基本金	貯 金 局	一〇〇〇	
信託預金	安 田 信 託	一〇、〇〇〇〇	
信託預金	三 井 信 託	一五、〇〇〇〇	
信託預金	三 菱 信 託	一〇、〇〇〇〇	
定期預金	三 菱 銀 行	四、五〇〇〇〇	
特別當座預金	三 菱 銀 行	一、五〇七七二	
特別當座預金	三 菱 銀 行	一、〇一六八四	
現金	事務所保管	三二一〇	
總計		八六、五八七七五	八六、五八七七五

外にセンチュリー辭書堂部(明治聖徳記念學會より財團法人明治聖徳記念學會に引繼したもの)

(以上主務官廳報告)



本會役員

(×印は理事他は評議員)

會長	文學博士 伯爵	×林 博太郎	文學博士	×加藤 玄智
監事	子爵	×橋本 勝太郎	男爵	×井田 磐楠
文學博士	池田 立基	×宮川 仁藏	文學博士	×白鳥 庫藏
文學博士	服部 宇之吉	草鹿 祇祐	文學博士	×草鹿 祇祐
法學士	阿部 信行	榎 哲吉	文學博士	榎 哲吉
伯爵	青木 菊雄	深 作安	文學博士	深 作安
伯爵	德川 達孝	幣原 坦文	文學博士	幣原 坦文
伯爵	大山 義信	佐藤 庸也	文學博士	佐藤 庸也
子爵	岩田 政敬	三 上參	文學博士	三 上參
子爵	仙石 政敬	岡 百泰	文學博士	岡 百泰
文學博士	田中 彦兵衛	杉 谷泰	文學博士	杉 谷泰
文學博士	×藤崎 三郎	大島 雅太郎	文學博士	大島 雅太郎
文學博士	望月 信亨		文學博士	

昭和六年度基本金現納報告

一金參百圓也  
 一金貳拾五圓也  
 一金壹百圓也

本間 光 正君 一金五圓也  
 井口 巳之吉君 計 金四百參拾圓也  
 金光 國 開君

原田 秀 泰君

昭和七年度經常費豫算

收入之部

一金七千壹百貳拾七圓四錢也

種目	豫算額	備考
前年度繰越	1,010.00	
第六回東京電燈社債利息	1,200.00	
第八十二回東京府農工債券利息	1,500.00	
三井信託預金利息	750.00	
三菱信託預金利息	500.00	
安田信託預金利息	510.00	
會費	1,000.00	
出版物分讓	100.00	
銀行預金利息	1,200.00	
振替貯金利息	100.00	
合計	7,110.00	



支出之部

一金七千壹百貳拾七圓四錢也

種目	豫算額	備考
紀要冊七及冊八卷並別冊及會報發行費	1,300.00	
臨時印刷出版費	350.00	
通信費	300.00	
手當及謝禮	3,300.00	
諸般會合費(本會創立廿年祝賀會費用を含む)	500.00	
及接待費其他車馬賃	250.00	
旅費及電車其他車馬賃	200.00	
備品費雜費	100.00	
電話費	90.00	
新聞雜誌書籍(研究用及寄贈用)及研究用寫真費	150.00	
事務所研究所借家賃	850.00	
瓦斯水道電燈料其他	120.00	
豫備費	120.00	
合計	7,120.00	

(參) 會 則

財團法人明治聖德記念學會寄附行爲(會則) (但し大正十三年(度)より改正實施)

第一章 起原及名稱事務所

第一條 本會は明治の聖代を永遠に記念するに萬古不易の眞理研究を以てせむとして起れる日本學會にして財團法人明治聖德記念學會と稱す



第二條 本會は事務所を東京市小石川區丸山町十一番地に置く  
前項の事務所は理事會の議決に依り之を變更することを得

第二章 目的並に事業

第三條 本會は主として人文史的學問の新研究に照して本邦思想の特色と我が建國精神の大本とを闡明し我が國體の精華と日東の文明とを内外に顯彰し以て自から知るに力むると同時に日本文明の真相を世界の學界に紹介して彼我の精神的理會に資せむことを期す

第四條 前條の目的を達せんが爲本會は左の事業を行ふ

- 一、本會研究所の經營
- 二、内外文を以てせる研究結果の發表及本會の目的實現に必要な出版物の刊行並に各種研究上の會合
- 三、講演會の開催
- 四、前各號の外理事會に於て特に必要と認めたる事項

前項第一號第二號は主として研究所の事業として之を行ふ

第五條 本會の研究所に關する規定は理事會の議決に依り之を定む

第六條 本會の特別功勞者に對しては理事會の議決に依り本人と合議の上特別講演會を開催し以て其の功勞を社會に表彰することあるべし

第七條 有志者より社會人心開發の目的を以て特に經費を寄附し本會の目的に添へる通俗講演會を開催せん事を請ふときは理事會の議決を経て本會は之に應諾することあるべし

第三章 資産及會計

第八條 東京市小石川區丸山町十一番地加藤玄智方明治聖德記念學會は從來諸有志の寄附に係る現有財産金九千百拾七圓を本會に寄附し以て本會設立の基礎と爲す

前項金額の内九千八拾七圓を基本財産とし剩餘は經常費に充て基本財産は將來有志者の寄附により之を金貳拾萬圓以上に増加せんことを期す

基本財産は評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得るに非らざれば處分することを得ず

第九條 本會の目的を翼賛して寄附せる金員有價證券貴重なる動産又は不動産は理事會の議決に依り之を基本財産に編入す但し其の目的を指定したるものは其の用途に充つ

第十條 不動産以外の基本財産は確實なる銀行又は郵便官署に預け入れ若は確實なる有價證券に



換へて保管することを得但し時宜に依り評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得て不動産を購入することを得

前項以外の財産は理事會の議決を以て定めたる方法に依り之を管理處分す

第十一條 本會の會計年度は毎年一月一日に始まり十二月三十一日に終る

第十二條 本會の豫算は毎年評議員會の議決を経て之を定め決算は其承認を得るものとす

第十三條 本會の經常費は左の諸収入を以て之に充て剩餘金あるときは基本財産に編入す但し必要ある場合には翌年度の經常費に繰越すことを得

一、第八條第二項の剩餘金

二、基本財産より生ずる収入

三、會費

四、特に經常費として寄附したる金員

五、其他の収入

第四章 會員

第十四條 本會の會員は正會員、特別會員、終身會員及協賛會員とす

第十五條

正會員は毎年會費金貳圓を本會に前納し邦文紀要の配附を受け臨時本會にて刊行する内外文の出版物を特價を以て購入し且本會の講演會に出席することを得但し既納の會費は事情の如何に關らず之を還附せず

第十六條

特別會員たらんとするものは他の特別會員、終身會員又は協賛會員の紹介を以て入會し毎年會費金三圓を納附し邦文紀要及其の特別號の配附を受け臨時本會にて刊行する内外文の出版物を特價を以て購入し且本會の講演會に出席することを得但し既納の會費は事情の如何に關らず之を還附せず

第十七條

終身會員は左の各號に該當する者より成り終身會費を徴せず其待遇は凡て特別會員に同じ

一時に金五拾圓を納附し理事會の承認せる者

金五拾圓以上又は該金額以上に相當せる財産を寄附し理事會の承認せる者

理事會にて特に推薦せる者

第十八條

協賛會員は本會の事業を翼賛せる斯道の専門家若は社會の名望家にして理事會之を推薦し本會の講演會に出席し本會にて刊行せる出版物の寄贈若は特價配附を受くるものとす



協賛會員は會費を要せずと雖も正會員、特別會員又は終身會員を兼ねる者は其會費は當該會員の規定に従ふものとする  
第十九條 會員にして其義務を怠り若は本會の體面を汚すものは理事會の議決を経て之を除名す

第五章 役員

第二十條 本會に理事五名以上七名以内、監事二名、評議員若干名を置く

第二十一條 本會に會長一名を置き理事の互選とす

第二十二條 會長は本會を代表し理事會の定むる所に依り事務を處理す

第二十三條 理事は理事會の定むる所に依り事務を分掌し會長事故ある時は理事中より互選に依りて其の代表者を定む

第二十四條 理事及監事は評議員會に於て協賛會員、特別會員及終身會員中より之を選任するものとす

第二十五條 評議員は協賛會員、特別會員及終身會員中より理事會に於て之を推薦す

第二十六條 理事監事及評議員の任期は五ヶ年とす但し重任を妨げず

第二十七條 補缺會員の任期は前任者の殘任期間とす

第二十八條 理事及監事任期満了の場合に於ても其の後任者の就職する迄は尙其職務を行ふものとす

第六章 評議員會及理事會

第二十九條 評議員會は毎年一回之を開く但し理事會に於て必要ありと認めたるときは臨時評議員會を開くことあるべし

評議員會の招集開閉は會長之を掌る

第三十條 評議員會の議長は出席評議員の互選を以て之を定む

第三十一條 評議員會に於て行ふ理事及監事の選舉は有效投票の多數を得たる者を當選者とす  
得票同數なるときは抽籤を以て之を定む  
第一項の選舉は會議の議決を以て指名推薦に依ることを得

第三十二條 評議員會の議事は出席者の過半數を以て之を決す可否同數なるときは議長の決する所に依る

第三十三條 理事會は必要に應じ隨時開會す

第二十九條第二項第三十條乃至第三十二條の規定は之を準用す

第七章 雜則



第三十四條 本寄附行爲の施行に必要な細則は理事會の議決に依り之を定む

第三十五條 本寄附行爲は評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得主務官廳の認可を受くるに非ざれば之を變更することを得ず

第三十六條 本法人創立當初の理事は設立者之に當り監事は設立者に於て之を推薦す前項役員任期は法人設立許可の日より起算するものとす

(肆) 恩賜及各宮家御下賜金並終身會員寄附申込

一金 壹千圓也

恩賜 (宮内省)

一金 壹百圓也

秩父宮殿下御下賜

一金 壹百圓也

高松宮殿下御下賜

一金 壹千圓也

伏見宮殿下

閑院宮殿下

華頂宮殿下

賀陽宮殿下

梨本宮殿下

東久邇宮殿下

竹田宮殿下

有栖川宮殿下

東伏見宮殿下

山階宮殿下

久邇宮殿下

朝香宮殿下

北白川宮殿下

李王世子殿下

一金壹千貳百五拾圓也 荒井泰治君

一金五百圓也 數田輝太郎君

一金五百五拾圓也 伯爵 林博太郎君

一金參百圓也 公爵 大山柏君

一金參百圓也 加藤八郎右衛門君

一金五拾圓也 別府哲二郎君

男爵 岩崎小彌太君

安田修徳會殿

藤崎三郎助君

田中彦兵衛君

加藤玄智君

榎哲君



一金參百圓也  
一金壹千五百圓也  
一金壹千五百圓也  
一金五千圓也  
一金參千圓也  
一金貳百圓也  
一金壹百五十圓也  
一金貳百圓也  
一金貳百圓也  
一金壹百圓也  
一金壹百圓也  
一金壹百圓也  
一金五百圓也  
一金五百圓也  
一金參百圓也  
一金壹百圓也  
一金壹千圓也  
一金五百圓也  
一金五百圓也  
一金壹千圓也

岡田祐二君  
高橋是賢君  
今村繁三君  
山下龜三郎君  
遊澤榮一君  
白石元治郎君  
別府金七君  
井田磐楠君  
榎武君  
橋本勝太郎君  
本郷房太郎君  
遠山市郎兵衛君  
公爵 德川達孝君  
男爵 森村開作君  
服部一三君  
高田釜吉君  
嘉納純君  
藤田徳次郎君  
男爵 住友吉左衛門君

一金五百圓也  
一金壹百圓也  
一金壹千圓也  
一金壹百五十圓也  
一金五圓也  
一金壹千圓也  
一金七拾五圓也  
一金貳百五十圓也  
一金五拾圓也  
一金七拾圓也  
一金六拾圓也  
一金五拾圓也  
一金壹千圓也  
一金壹百圓也  
一金壹百圓也  
一金壹千圓也  
一金四百圓也  
一金五拾圓也  
一金五千圓也

男爵 藤田平太郎君  
無名氏  
石山昭勤君  
福島甲子三君  
松井庫之助君  
早川千吉郎君  
菊地慎之助君  
松平直亮君  
藤崎隆次郎君  
田中政明君  
岩田義信君  
前川芳輝君  
川崎榮助君  
辰馬悅藏君  
堀田正恒君  
伯爵 內藤久寛君  
帶谷傳三郎君  
廣瀬豐君  
男爵 三井八郎右衛門君

一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金壹千圓也  
一金五百圓也  
一金五百圓也  
一金五百圓也  
一金壹百圓也  
一金壹千圓也  
一金五百圓也  
一金貳百圓也  
一金貳百圓也  
一金五拾圓也  
一金八拾圓也  
一金壹百圓也  
一金五百圓也  
一金五百圓也  
一金五百圓也  
一金五拾圓也

池田立基君  
赤石定藏君  
和田豐治君  
緒明圭造君  
服部金太郎君  
男爵 古河虎之助君  
侯爵 野田寛治君  
德川頼倫君  
多木象次郎君  
小林徳一郎君  
宮川仁藏君  
土屋正直君  
齋藤精一君  
大倉邦彦君  
佐藤庸也君  
松代松之助君  
千葉松兵衛君  
大島雅太郎君  
鈴木馬左也君

一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金八百圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也  
一金五拾圓也

ボソソソビ君  
岡百世君  
伊藤齊兵衛君  
金光國開君  
有尾佐治君  
草鹿砥祐吉君  
ウッソド君  
福永政治郎君  
山下東三郎君  
及川古志郎君  
常磐井堯猷君  
安滿欽一君  
久世爲次郎君  
ウオ一ナ一君  
向西兵庫君  
米澤圖書館君  
青木菊雄君  
岡中本吉君



一金五拾圓也	渡邊滿太郎君	一金五拾圓也	井口己之吉君
一金壹千圓也	武藤山治君	一金五拾圓也	尾野雅通君
一金壹千圓也	川崎武之助君	一金拾圓也	浮村直彦君
一金五拾圓也	赤松範一君	一金五拾圓也	今村榮吉君
一金拾五圓也	本山彦一君	一金五拾圓也	蜂須賀正氏君
一金五拾圓也	森田判助君	一金六拾圓也	梅田大圓君
一金五拾圓也	西脇勘吉君	一金五拾圓也	和田源祐君
一金壹百圓也	河村亮洲君	一金貳百參拾圓也	松本源祐君
一金壹千圓也	鍋島直繩君	一金壹百圓也	酒井爲太郎君
一金五拾圓也	兒玉謙次君	一金壹千八百圓也	宮本庄次郎君
一金五百圓也	星野日子四郎君	一金七拾五圓也	藤崎三郎助君
一金五百圓也	前田利爲君	一金貳百圓也	加藤支智君
一金五拾圓也	樽岡金次郎君	一金五拾圓也	星野日子四郎君
一金五拾圓也	池上四郎君	一金五拾圓也	ステラワート君
一金五百圓也	石丸志都磨君	一金貳百圓也	金光鑑太郎君
一金五拾圓也	中野貫一君	一金五拾圓也	辻本寅吉君
一金五拾圓也	莊司益吉君	一金五拾圓也	龜井寅雄君
一金五拾圓也	千家尊弘君	一金五拾圓也	平山寅次郎君
一金五拾圓也	中山正善君	一金參百圓也	小泉來兵衛君
			ベイト君
			本間光正君

(伍) 本會研究所に於て將來研究に着手す可き研究題目豫定一斑

(甲) 一般題目

- 一 神道の發達史的研究
- 二 臺灣の宗教
- 三 朝鮮の宗教
- 四 日本經濟史の研究
- 五 日本基督教傳播史研究
- 六 歴代の朝儀及び祭儀の研究
- 七 アイヌ宗教神話及び傳説
- 八 日本の考古學
- 九 日本風俗史研究
- 一〇 日本に於ける佛教各宗の史的研究
- 一一 日本文學の研究

(乙) 特殊題目

- 一二 アイヌ語の研究
- 一三 日本哲學の史的研究
- 一四 日本法制史の研究
- 一五 日本教育史の研究
- 一六 朝鮮史の研究
- 一七 日本藝術史の研究
- 一八 日本書史の研究
- 一九 日本道德史の研究
- 二〇 神祇史の研究
- 一 佛教僧侶の手に成れる神道書類の調査及び整理



- 二 神佛調和思想の史的研究
- 三 神道を中心とする我が國體の研究
- 四 神儒二教の史的關係
- 五 徳川時代以後に於ける教祖神道の歴史及び  
教理
- 六 神道研究書目の集成及び解題
- 七 紀記及び舊事記の本文批評
- 八 延喜式祝詞の本文批評
- 九 古語拾遺の研究
- 一〇 古風土記の研究
- 一一 我國古今民間信仰の研究
- 一二 修驗道の研究殊に其の山嶽崇拜との關係
- 一三 我國の思想信仰上に及ぼせる道教の影響
- 一四 我が祖先崇拜の研究

- 一五 日本語と琉球語の比較研究
- 一六 勤王論の發達
- 一七 我國爲政家の採れる對佛基二教策
- 一八 我國方言の研究
- 一九 戰記類の研究
- 二〇 我が謠曲及び小説の歴史的研究
- 二一 比較神話上より見たる日本神話
- 二二 和歌及び俳諧の研究
- 二三 我が家族制度の研究（附現行民法との關係）
- 二四 我國に於ける社會事業の過去及現在
- 二五 我が封建制度の發達
- 二六 日本武士道と西洋武士道との比較研究
- 二七 萬葉集の研究
- 二八 日本語と朝鮮語との言語學的研究

三四

- 二九 琉球の神話
- 三〇 徳川時代に於ける國學の發達
- 三一 國文學上に於ける印度思想殊に佛教の影響
- 三二 大和魂の本質
- 三三 國文學と漢文學との關係
- 三四 我が民族制度の研究
- 三五 勅選和歌集の研究
- 三六 所謂道歌の研究
- 三七 我國上代文化の考古學的研究
- 三八 國語の音聲學的研究
- 三九 我國體の特色と將來の國民道德
- 四〇 我國體と外來の教學
- 四一 神儒佛三教の歴史的關係

- 四二 心學の研究
- 四三 平安朝の小説物語
- 四四 過去に於ける邦人の海外貿易及交通
- 四五 我國に於ける祭祀と政治との關係
- 四六 氏神と氏族
- 四七 祭神と土地及住民
- 四八 敬神と尙武の氣風
- 四九 外國との交通と歸化人
- 五〇 我國民の同化力
- 五一 我國に於ける異人種の位置
- 五二 儒佛二教の我が國の文化に及ぼせる影響
- 五三 禪と武士道
- 五四 儒教と武士道
- 五五 社寺と庄園

三五



- 五六 造寺及び私度の國家の上に及ぼせる影響
- 五七 本地垂迹思想の由來
- 五八 神道に於ける道教の要素
- 五九 繪畫に及ぼせる道教の影響
- 六〇 陰陽道と天文卜筮及び呪禁
- 六一 天主教徒と其殉教
- 六二 佛教と戸籍
- 六三 基督教の新舊兩派並に羅典日耳曼兩民族の我國に於ける鬭争
- 六四 日本に於ける基督教徒と西洋文明
- 六五 我國朱子學派と他流壓迫
- 六六 奈良平安兩朝の文明と鎌倉時代以後に於ける文明の比較研究
- 六七 浮世繪の世界的價值と特に其の版畫發達

- の史的研究
- 六八 茶の湯庭造の趣味に關する研究
- 六九 佛教僧侶と温泉
- 七〇 倭寇と八幡船
- 七一 神道とシャマン教との關係
- 七二 本邦人の自然崇拜
- 七三 淫祠と神佛の融合
- 七四 禊祓の研究
- 七五 國史に現はれたる慈善事業
- 七六 日本佛教の特色
- 七七 聖德太子の佛教
- 七八 鎌倉時代に興隆せし佛教諸宗派の比較研究
- 七九 我國に於ける佛教戒律の根本的研究

- 八〇 皇室と佛教
- 八一 鎌倉時代に於ける民間の佛教信仰
- 八二 我國民性と佛教
- 八三 隠れたる偉人傑士の傳記
- 八四 名所舊蹟の調査

- 八五 我國に於ける戰術及び兵器の發達
- 八六 本朝往生思想の研究
- 八七 本邦産業の發達
- 八八 本邦生祠の調査及び研究
- 八九 本邦の土俗と南洋土俗との比較研究

(祿) 本會研究所第一期完成經常費見積額

一金貳萬圓也

毎年の經常費總額

内 譯

研究所費

- 一金壹萬五千參百五拾圓也
- 一金參千圓也
- 一金五千圓也
- 一金壹千九百貳拾圓也
- 一金壹千圓也
- 一金四百八拾圓也

- 所長俸給
- 所員二名俸給
- 書記兼會計(事務所兼勤)二名俸給
- 囑託手當
- 使丁(事務所兼勤)一名俸給



- 一金貳千四百五十圓也
- 一金七百圓也
- 一金八百圓也
- 一金貳千壹百圓也
- 一金五百圓也
- 一金六百圓也
- 一金壹千圓也
- 一金貳千五百五十圓也
- 一金五百圓也
- 一金壹百五十圓也
- 一金壹百參拾圓也
- 一金七拾圓也
- 一金壹千貳百圓也

- 研究に關する出版物費用
- 研究所經營費
- 研究旅行費出版物購入費
- 講演會費
- 每月講演會費
- 長期講演會費（地方講演をも含む）
- 公開講演會費（地方講演をも含む）
- 事務所費
- 會報其他印刷費
- 通信費
- 諸般會合並接待費
- 備品並事務用品費
- 電話料
- 事務所並研究所借家料

(質) 會員名簿

(次第不同 昭和六年十二月末日調)

伊東教順	入澤宗壽	今泉定介	稻垣孝照	泉口寛了	石井鹿之助	出雲大社々務所	井野口春清	今村榮吉	石丸志都磨	池田立基	岩田義信	今村繁三	岩崎久彌	岩崎小彌太	伊藤齊兵衛	井田榮楠	井上哲次郎
今井信之	稻村要八	岩佐正寛	稻垣眞我	井澤信新	井上信彦	今村萬平	石井直三郎	泉茂家	石橋智信	市川信三	石田茂吉	飯田義作	今井義三	石村吉甫	伊藤重夫	石川岩吉	到津公照
長谷川直敏	橋本武吉	橋本眞平	蜂須賀正氏	服部金太郎	橋本博太郎	服部字之吉	は	石井廣夫	伊藤浩藏	伊藤祐賢	井出英作	石川太朗	石川謙	伊藤良吉	伊藤駿治	伊藤良吉	伊藤駿治
西日東寺寅夫	西澤頼應	新田邦達	西島千種	西田千宏	に	様	春田千之雄	服部捨郎	早川文治	林山茂松	春山茂松	林山茂松	林山茂松	原田敏明	林山茂松	林山茂松	林山茂松
本問光正	C. R. Roxer	本多辰次郎	北條尊善	補永茂助	堀岡文吉	ホルトマン	星野輝興	望洋書屋	星野日子四郎	堀田正恒	Richard Ponsoby Fane	ホントンビー	Richard Ponsoby Fane	別府哲七	別府哲七	別府哲七	別府哲七
豐田伊三美	島羽正雄	富地近思	德大寺實厚	戸村理順	常磐井堯敏	徳川途孝	遠山市郎兵衛	床次竹二郎	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝	徳川途孝











白石元治郎	白鳥庫吉	莊司益吉	白川義則	篠田周之	神宮皇學館	柴田孫太郎	柴田直胤	修養園本部	志田御太郎	幣原坦	樹下快淳	芝田徹心	清水清之助	島村春道	新保徳壽	新保榮次	下村青英財團	新間智啓	志岐豐
神榮宣郷	廣瀬豐	平田盛胤	平出長太郎	菱沼清吉	弘田由己子	平泉澄	檜山成敏	平山寅次郎	平山暢郎	廣野三郎	水室昭一	久松清一	森村開作	森田判助	本山佐織	杉谷泰山	Stewart	杉谷泰山	杉谷泰山
森下喬夫	本山彦一	望月信亨	百瀬芳隆	仙石政敬	千家尊弘	瀨下清	瀨屋貞三郎	瀨川廣太郎	千家尊統	關野忠治	千家尊建	千家尊有	Stewart	Stewart	Stewart	Stewart	Stewart	Stewart	Stewart
鈴木孝雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄	鈴木三雄

財團法人明治聖徳記念學會既刊書目

- (一) 邦文紀要 (年二回發行) (計三十六册既刊)
- (二) 紀要別冊
  - (1) 三社託宣の研究 (英文)
  - (2) 明治天皇の御製と敬神の大御心
  - (3) 我建國の根本精神と戦時の歐米列強
  - (4) 日本文明研究の急要
  - (5) 本邦に於ける赤十字事業の先驅 (英文)
  - (6) 昭憲皇太后陛下の御坤徳
  - (7) 帝王學の教科書三代御記
- (三) 我國體と神道
  - (一) 神道
  - (二) 神道
  - (三) 神道
  - (四) 神道
  - (五) 神道
  - (六) 神道
  - (七) 神道
  - (八) 神道
  - (九) 神道
  - (十) 神道
- (四) 和論語の研究 (英文)
- (五) 大嘗祭御圖
- (六) 君と臣 (日英兩文)
- (七) 憑靈と豫言者
- (八) 聖問原著日本書記私鈔
- (九) 神社對宗教
- (一〇) 後水尾院天皇說胡蝶
- (一一) 神道の宗教學的新研究
- (一二) 御影講



- (二三) 文學博士 加藤玄智 編 現下の社會問題と思想問題
- (二四) 山陵の助著 研究
- (二五) 公爵 大山 柏著 土器製作基礎的研究
- (二六) 文學博士 伯耆 東郷平八郎元帥題字 新らしき愛國論
- (二七) 文學博士 加藤玄智 共著 英文古語拾遺研究
- (二八) 文學博士 加藤玄智 著 我國體の特色と敬神の眞意義
- (二九) 文學士 樹下 快淳著 鈴木重胤の眞人物
- (三〇) 白鳥加藤二博士 共演 兩陛下大婚滿廿五年御記念講演
- (三一) 文學博士 加藤玄智 著 生祠研究上の異彩明治宮
- (三二) 文學士 伊波 普猷著 眞宗沖繩開教前史
- (三三) 文學博士 加藤玄智 著 神道研究 (英文)
- (三四) 野崎 城雄著 狂歌集目錄

- (二五) 松本 藤 兩博士 口演 藤崎講義
- (二六) 池邊 眞 著 古語拾遺新註
- (二七) 文學博士 加藤玄智 著 祖國日本の正しき姿
- (二八) 田安 宗武 著 古事記詳説並別記
- (二九) 嘉祿本古語拾遺
- (三〇) 疑 佐 勝美 著
- (三一) 文學博士 栗田 寛著 古語拾遺講義稜威男健
- (三二) 本會 研究 所 校訂 文 献 蒐 載 (十册既刊)
- (三三) サドラ及サルウエイ共録 英文「日本詩文二名著」
- (三四) 本會 研究 所 校訂 校本古訓古語拾遺
- (三五) 文學博士 加藤玄智 著 本邦生祠の研究

### 入會を歓迎す

本會は 明治天皇不朽の聖徳を永遠に記念せんが爲めに本邦精神文明の根本的研究より來る萬古不磨の眞理闡明を以てせんとして起れる學會にして會員組織を以て成り其研究結果は毎年本會より直接發行せる内外文の紀要又は單行本に於て之を發表す特に先年度より紀要中に學者の研究上必要の珍藉にして單に寫本にて傳はるのみにて公刊に至らず從て之を傳寫せんとするも原本は容易く得難く又之を得るも謄寫の費用割合に嵩み個人としては意に任せざるの憾ある稀觀書を選び文献蒐載欄に掲載す可きを以て本紀要所持者は知らず識らずの中に這種典籍の収集を爲すことを得るの便あり右登載完成のものには田安宗武著古事記詳説並別記及び古語拾遺の最古寫本たる京都吉田子爵家の嘉祿本古語拾遺あり斯くの如きは全く前記企圖の實現せられしものとす本會は諸彦が此際會員加名に由りて本紀要及び文献蒐載を利用し以て斯道の研鑽に資せられんことを希望す

(正會員は年額會費貳圓特別會員は年額參圓前納終身會員は一時前納會費金五拾圓)



故池邊眞榛大人遺著

東京帝大名譽教授 上田 萬年 序  
 文學博士 加藤 玄智  
 文學博士 星野 日子四郎 校訂  
 本會研究所 溝口 駒造  
 東京帝大神道及 研究室 攝

校訂 古語拾遺新註 全一冊  
 附冊「疑齋」

菊判約 七三二頁  
 コロタイプ寫眞二十葉入  
 一冊正價 金拾圓  
 内地送料一冊金參拾參錢  
 東京市内送料一冊金拾貳錢

本書は從來寫本のみにて傳はれる稀籍にして偶手に入るも一部二百金に上れり。眞榛大人の古語拾遺新註の古語拾遺に於ける尚本居宣長の古事記傳の古事記に於けるが如し。從來の寫本は全く大人の自序を缺く本會の苦心は大人の自筆寫本より發見せる自序を載録す。大人の傳記は從來世に傳はれるもの稀なり偶同郷の篤學者坂本章三君は大人の傳記と著書の凡てを明かにすることを得て其の成果を卷頭に收めたり。本書は本會研究所に於て嚴訂の下にコロタイプ版十數葉を添へて之を公刊せり本書の新刻は上田萬年白鳥庫吉兩博士顧問の下に加藤玄智星野日子四郎河野省三溝口駒造諸彦の校訂に努められたるものなり。本書は殘本極めて僅少即時の購讀を切望す本會への直接購讀者に對しては別に古語拾遺の辛辣なる批評たる附冊「疑齋」一部進呈。  
 (但し本會の終身、協賛、特別會員にして本會直接購讀者は無郵税の特權を有す)

購讀申込所

東京市小石川區丸山町十一  
 振替東京二七〇八一

財團法人明治聖德記念學會

本會出版重要書籍

- 一、池邊眞榛著 古語拾遺新註 定價一冊金三十六圓 書留送料一冊金三圓
- 二、吉田家嘉祿本古語拾遺 全三冊 定價金五十圓 書留送料一冊金三圓
- 三、文學博士 栗田寬著 古語拾遺後威男健 定價一冊金六圓 書留送料一冊金廿七錢
- 四、聖岡著 日本書紀私抄 定價一冊金三圓五十錢 不送料 (終身、特別、協賛會員に限り特價三圓)
- 五、田安宗武著 古事記詳說並別記 全三冊 定價金九十錢 不送料
- 六、野崎左文著 狂歌集目錄 定價一冊金九十錢 不送料
- 七、文學博士 加藤玄智著 英文文神道 定價一冊金四圓五十錢 書留送料一冊金廿七錢 (終身、特別、協賛會員に限り一冊金四圓)

特別會員 御中  
 正會員

本會會費未納諸彦に謹告

大至急御納入を乞ふ

- 八、加藤玄智、星野日子四郎著 英文古語拾遺研究 定價一冊金三圓五十錢 書留送料一冊金十八錢 (終身、特別、協賛會員に限り一冊三圓)
- 九、古語拾遺攷異、疑齋、疑齋辨 (紀要第卅三、卅四卷別冊)
- 一〇、加藤玄智、星野日子四郎 溝口駒造新訂 校本古訓古語拾遺 (新刊) サドラ及サルウエイ共録
- 二、英文日本詩文二名著 定價一冊金五十錢 書留送料一冊金十二錢 (終身、特別、協賛會員に限り一冊金四十五錢)
- 三、レビ教授譯序 佛文 神道



文學博士 加藤玄智著

# 本邦生祠の研究

生祠の史實と其心理分析

著者十有餘年苦心の結晶！  
神道研究の好指針！  
日本人の信仰心理の解明！  
先人未踏の新天地！  
神社検討の實物指教！  
内外學者の驚異！

菊版 四百有餘頁  
寫眞コロタイプ共百十數挿入  
生祠分布着色地圖三葉入  
一冊 價 金 六 圓 也  
内地送料一冊 金三十三錢也  
東京市内送料一冊 金十二錢也  
本會の終身、特別、協賛  
會員に限り送料本會負擔

五〇

第一章 緒論——余の本邦生祠研究の機縁

第二章 本邦生祠の事實

第一節 小引

第二節 生祠の種々相——正形と變形

第一項 雲上御生祠

第二項 生祀せる年時を指點し得るもの

第三項 生祀せる年時の明確には指點し難きもの

生祠成立に關する宗教學的考察

本邦生祠構成の宗教心理と墳墓及記念碑

結論——本邦生祠研究の理論的及び實際的意義

參 考 篇

生祠に關し主として外國の學界に發表せる著者の諸論文を輯む

第三節 本邦生祠の建立と生神奉祀の年代一覽  
第一 年代の判明せるもの若くは略判明せるもの  
第二 年代の考定し易からざるもの  
第四節 本邦の生祠及び生神奉祀の分布  
第五節 總括

購讀申込所

東京市小石川區丸山町十一番地

財團 明治聖德記念學會

電話大塚 〇二七〇番  
電話東京 二七〇八一番

## 會 告

正會員及特別會員の御方で本年及それ以前の年度の會費未納の向は至急本會の振替にて御納入願上候正會員は年額金貳圓特別會員は年額金參圓に候若し振替にて御送金無之時は其中集金郵便に托すべく其の節は改正集金郵便令に據り正會員の會費貳圓の集金不取扱規則に付き貳ヶ年分の會費金四圓頂戴可致豫め御含置被下度尙又此の外集金手数料拾錢加算可致候間前以申上置候本會は可成早く振替にて御送金の程双方の便利と存じ右希望の至に不堪候

昭和七年一月

財團 明治聖德記念學會

昭和七年一月廿五日印刷  
昭和七年一月廿八日發行

編輯兼 發行所 東京市小石川區丸山町十一番地  
財團 明治聖德記念學會

振替貯金口座東京二七〇八一番  
電話大塚(86)〇二七〇番

右代表者 溝 口 駒 造  
東京市麴町區富士見町一丁目三十番地

印刷人 宮 島 富 治  
東京市小石川區龍籠町五番地

印刷所 宮 島 印刷 所  
東京市小石川區龍籠町五番地



終